

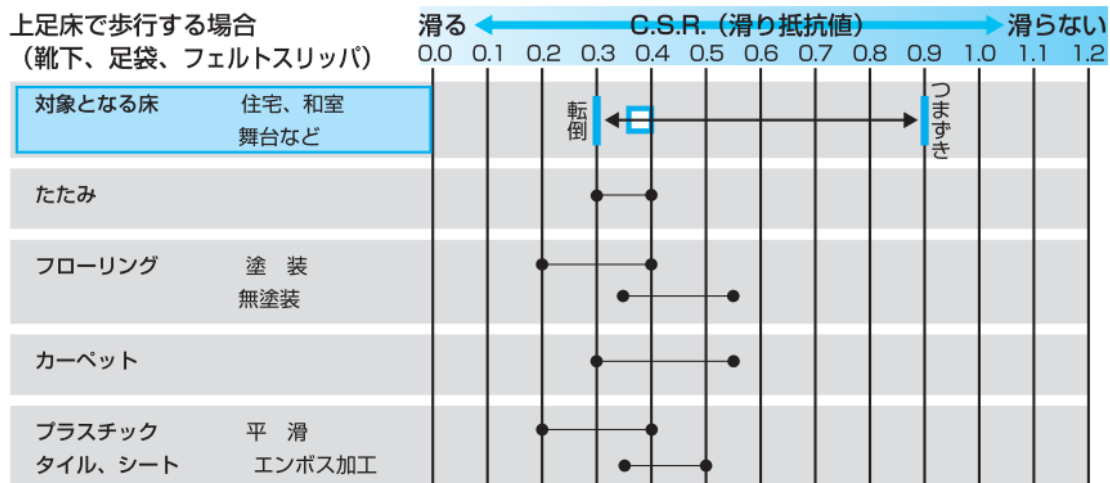
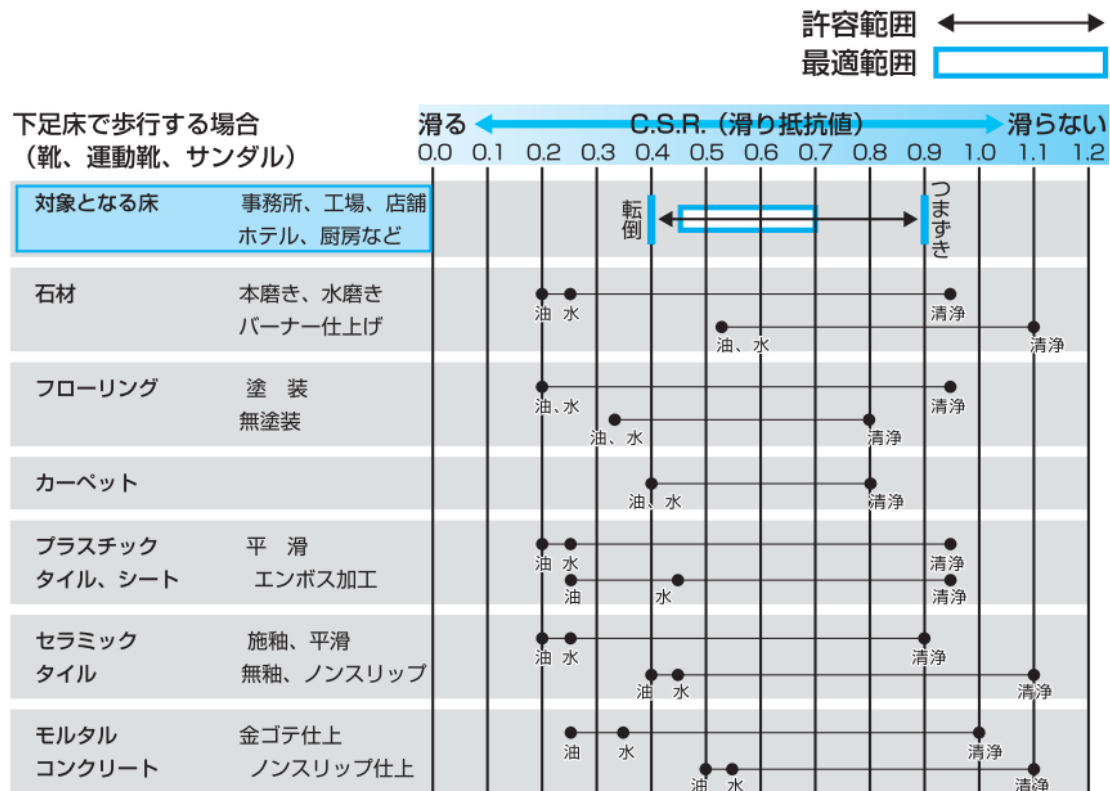
■ 基本的な考え方

床の材料及び仕上げは、使用環境を考慮し、高齢者等が安全かつ快適に通行できるものとするのが望まれます。さらに、滑りやすさは、履物の底の材質、水や油、砂が付着するなどの表面状態にも大きく左右されるので、使用にあたっては注意する必要があります。

■ 参考とすべき基準

項目	解 説	参照条文等								
床材の注意点	- 床の材料及び仕上げは、床の使用環境を考慮し、高齢者等が安全かつ快適に利用できるものとする。特に、水分や油の付着によって滑りやすくなる材料もあるので、使用にあたっては注意する必要がある。 - 置き敷きのじゅうたんや板張りの上のマット等は、端部がめくれたり段差となったりするので使用にあたっては注意する必要がある。 - 凹凸の大きい床材や毛足の長いじゅうたん等は、車椅子使用者が移動しにくい場合や安全な歩行を妨げる場合もあるので注意する必要がある。									
評価指標	- 床の滑りの指標として、JIS A 1454(高分子系張り床材試験方法)に定める床材の滑り性試験によって測定される滑り抵抗係数(C.S.R)や JIS A1509-12(陶磁器質タイル試験方法 - 第 12 部・耐滑り性試験方法)によって測定される素足の場合の滑り抵抗値(C.S.R・B)を用いる。 - 石材などの高分子系張り床材や陶磁器質タイル以外の床材についても、これらの試験方法によって滑り抵抗値を測定することが可能である。 - 滑り抵抗係数が大きいほど滑りにくく、小さいほど滑りやすい。 - 滑り抵抗係数は素材固有のものであるが、水、砂等が付着する等表面の状態や履物の底の材質によって変化する。 - 滑りやつまずきによる転倒事故は、水、砂等の異物が床材表面に付着した際及び履物が変わった時と通常時での滑り抵抗係数の変化が大きい床材で多く発生している。 - 床材表面が乾燥していても湿っていても、滑り抵抗係数の差が小さい床材ほど転倒の可能性が低い床材となる。	標付録 4.1.2 JIS A 1454 JIS A 1509-12								
床材の滑り試験	- 履物の有無や種類、ほこりや、水分の付着の有無により滑りやすさは大きく異なるので、材料・仕上げの C.S.R 値等を確認するときは、床の使用時に想定される次の条件を考慮し、試験時の滑り片、試験片の表面状態を確認する。 ✓ 下足(靴、運動靴、サンダル等)、上足(靴下・スリッパ等)又は素足 ✓ 雨掛かり、ほこり・水分・油の有無等									
材料・仕上げ	履物を履いて動作する床、路面(日本建築学会の推奨値(案)) 床の材料・仕上げは、当該部位の使用条件を勘案した上で、次表の滑り抵抗係数の推奨値(案)を参考にして適切な材料・仕上げとすることが望ましい。 表 履物着用の場合の滑り抵抗係数の推奨値(案) <table><tr><th>単位空間等</th><th>推奨値(案)</th></tr><tr><td>敷地内の通路、建築物の出入口、屋内の通路、階段の踏面・踊場、便所・洗面所の床</td><td>C.S.R=0.4 以上</td></tr><tr><td>傾斜路(傾斜角: θ)</td><td>C.S.R-$\sin \theta$=0.4 以上</td></tr><tr><td>客室の床</td><td>C.S.R=0.3 以上</td></tr></table> ※(社)日本建築学会材料施工委員会内外装工事運営委員会 床工事 WG 『床の性能評価方法の概念と性能の推奨値(案)』(2008 年 6 月)	単位空間等	推奨値(案)	敷地内の通路、建築物の出入口、屋内の通路、階段の踏面・踊場、便所・洗面所の床	C.S.R=0.4 以上	傾斜路(傾斜角: θ)	C.S.R- $\sin \theta$ =0.4 以上	客室の床	C.S.R=0.3 以上	標付録 4.1.2
単位空間等	推奨値(案)									
敷地内の通路、建築物の出入口、屋内の通路、階段の踏面・踊場、便所・洗面所の床	C.S.R=0.4 以上									
傾斜路(傾斜角: θ)	C.S.R- $\sin \theta$ =0.4 以上									
客室の床	C.S.R=0.3 以上									

項目	解 説	参照条文等						
	素足の場合の滑り(※ここでは大量の水や石鹸水などがかかる床を想定) - 床の滑りの指標として、JIS A 1509-12(陶磁器質タイル試験方法―第 12 部:耐滑り性試験方法)に定める耐滑り性試験方法によって測定される素足の場合の滑り抵抗値(C.S.R・B)を用いる。 - 床の材料・仕上げは、当該部位の使用条件を勘案した上で、次表の滑り抵抗値の推奨値(案)を参考にして適切な材料・仕上げとすることが望ましい。 表 素足の場合の滑り抵抗係数の推奨値(案) <table><tr><th>単位空間等</th><th>推奨値(案)</th></tr><tr><td>浴室(大浴場)、プールサイドシャワー室・更衣室の床</td><td>C.S.R・B=0.7 以上</td></tr><tr><td>客室の浴室・シャワー室の床</td><td>C.S.R・B =0.6 以上</td></tr></table> ※(社)日本建築学会材料施工委員会内外装工事運営委員会 床工事 WG 『床の性能評価方法の概念と性能の推奨値(案)』(2008 年 6 月)	単位空間等	推奨値(案)	浴室(大浴場)、プールサイドシャワー室・更衣室の床	C.S.R・B=0.7 以上	客室の浴室・シャワー室の床	C.S.R・B =0.6 以上	標付録 4.2.2
単位空間等	推奨値(案)							
浴室(大浴場)、プールサイドシャワー室・更衣室の床	C.S.R・B=0.7 以上							
客室の浴室・シャワー室の床	C.S.R・B =0.6 以上							
滑りの差	- 突然滑り抵抗が変化すると滑ったりつまずいたりする危険が大きいため、同一の床において、滑り抵抗に大きな差がある材料の複合使用は避けることが望ましい。 ◇ 金属製の視覚障害者誘導用ブロックは、雨滴によりスリップしやすいので、敷地内の通路や建築物の出入り口等に使用する際には十分配慮することが望ましい。 ◇ グレーチングやマンホール蓋も、雨滴によりスリップしやすいので、敷地内の通路や建築物の出入口等に使用する際には、滑りに配慮されたものを使用する等、十分配慮することが望ましい。 - 床の滑りは、歩行や清掃等に伴う摩耗により、竣工時の状況から変化することに留意して、メンテナンスを行うことが望ましい。 - 建築物の床を改修する場合においても、滑り抵抗係数が各推奨値(案)を満足する材料、仕上げを採用することが望ましい。	標付録 4.3 標付録 4.3 留意点						
留意事項	◇ 階段の滑りには、踏面だけでなく段鼻の滑りも大きく影響するため、滑りにくい段鼻材を用いる。 - 特に高齢者等にとっては、床を滑りにくくしすぎると、つまずき等の原因となることがある。 - 滑りに配慮した材料・仕上げを用いることとあわせて、水溜り等ができないよう、水はけ(水勾配の確保や床下地の不陸調整)にも留意する。 - 一般的に、素足で歩く可能性はあるが大量の水や石けん水などがかからない床では、素足より靴下の方が滑りやすい場合が多いことから、滑り片を靴下とした C.S.R 値で安全側に評価できる可能性が高い。	標付録 4.2.2 留意点 標付録 4.3						



※出典：小野英哲東京工業大学教授作成資料

